

メタボ基準は無根拠

心血管疾患「腹囲で線引き困難」 発症リスク

厚労省最終報告

メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)対策として実施している特定健診・保健指導(メタボ健診)で使う腹囲の基準についての結果、「最適な値を決めることは困難」とする最終報告を発表した。腹囲が大きいほど発症者は増えたため、研究班は引き続き基準に使うことを提言したが、「線引き」の根拠が大きく揺らいだことで、制度の見直しを求める声が高まりそうだ。

【永山悦子】

現在は腹囲が男性85センチ、女性90センチ以上で、血圧、血糖値、血中脂質の検査値のうち二つ以上基準を超えると、メタボと診断される。

メタボは腹部に内臓脂肪がたまること、心血管疾患を発症しやすいという考え方に基づき、08年度から全国の健診に取り入れられた。

研究班は、地域住民を対象に実施している全国の12の追跡調査を総合的に解析した。心血管疾患を発症する危険性が高い人を見分け

るため、40〜74歳の男女約3万1000人の腹囲と心血管疾患の発症状況を分析したところ、男性は80センチ以上がそれ未満の1・48倍▽85センチ以上1・56倍▽90センチ以上1・70倍、女性は80センチ以上1・75倍▽85センチ以上1・79倍▽90センチ以上1・62倍と、いずれも腹囲が大きい方が発症割合も高かった。しかし、どの数値で

区切っても発症者の割合はほぼ変わらず、危険性の高い集団を選び出すのに最適な数値は算出できなかった。門脇孝・東京大教授は「数値は、予算や人材が豊富であれば小さめに、限られていれば大きめに設定する事項と考える」と話す。